

日本は70パーセントが森林に覆われています。これは、森と湖の国と呼ばれるフィンランドにも匹敵する割合です。世界でも有数の自生された木が残されているといってもよいでしょう。しかもその種類の多さは、圧倒的に多いようです。

四季それぞれの変化に富んだ姿を見せる日本の自然は、冷たくて清らかな水の流れと、豊かな緑に恵まれ、昔から生活の中に自然の姿を巧みに取り入れてきました。支配するのではなく、自らの生活の一部として慈しみ、育ててきました。

昔に描かれた風景画を見ると、山の頂上にはあまり木が描かれていません。人や動物が全く入ってこないような山は、あまり樹木も成長しないのです。森は生き物や人間と交流し、共生することによって豊かに茂り、恵みをもたらすようになります。

また、人里の隣にある里山は、毎日使う燃料のまきなど、ふだん使う木材といった貴重な資源の補給をする所でした。それだけに森林を枯らすことのないように、きちんと手入れがされていました。必要な物を必要なだけもらい、そのあとにちゃんと地に戻すようにだれもが当たり前のように心掛けていたのです。このように豊かな緑は、先祖が残してくれた貴重な財産だといえるでしょう。わたしたちもこの豊かな自然をずっと受け渡していきたいものです。